ZUNDARE magazine

Vol.15

ZUNDARE

ZUNDARE magazine 15

Editor-in-chief
└── Jun Otsubo

Creative Director
└── Miki Santoh

Director/Photographer
├── Takahiro Morimoto
└── Hidemasa Yoshino

Photographer
├── Yuichi Umehara
└── Atsushi Tashiro

Writer
└── FLASH SHIMADA

Cover Hair&Make
└── Fukuoka Belle epoque

ズンダレ編集部
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 2-11-1 福岡 PARCO 新館 5F
TEL : 092-791-4085
mail : info@zundare.art

One of these days is none of these days

「いつの日」はいつまでもやってこない

by Henry George Bohn

bambi (@haru_bambi)
福岡出身、趣味「音楽鑑賞」
6 月よりビンテージショップ「Are You Different」にて勤務。
@are_you_different

model : bambi
hair&make : miku, エビハラミズキ(FUKUOKA Bell epoque)
styling&direction : Miki Santoh
photography : Yuichi Umehara

福岡発、九州福岡を中心に凡そ5000部 350ヶ所に設置！
人の魅力を最大限にクローズアップした五感覚醒マガジン ZUNDARE MAGAZINE。
様々なカルチャーで活躍する偉人、超人、変人達を時に美しく、時には泥臭く掲載。
他を寄せ付けないあらゆる角度からフォーカスされた人々の溢れる魅力が読み手の五感を覚醒させる唯一無二のマガジン

ZUNDARE

photo : Takahiro Morimoto　　Illustration : Shouta Nishino (CAPTUR3)

いや、これが「普通」なんです。

プロウォーキング講師
今村 大祐

歩き方で
なりたい自分を演出できる

Personal Creator

今村 大祐

一般社団法人プロフェッショナルウォーキング協会
代表理事

プロウォーキング講師
ミラノコレクションウォーキングディレクター
パーソナルクリエイター / マインドセットコーチ

official HP

日本を作りたい。

誰もが美しく歩く

映像制作団体

SNOWMAN FILM

スノーマンフィルム

videographer/photographer

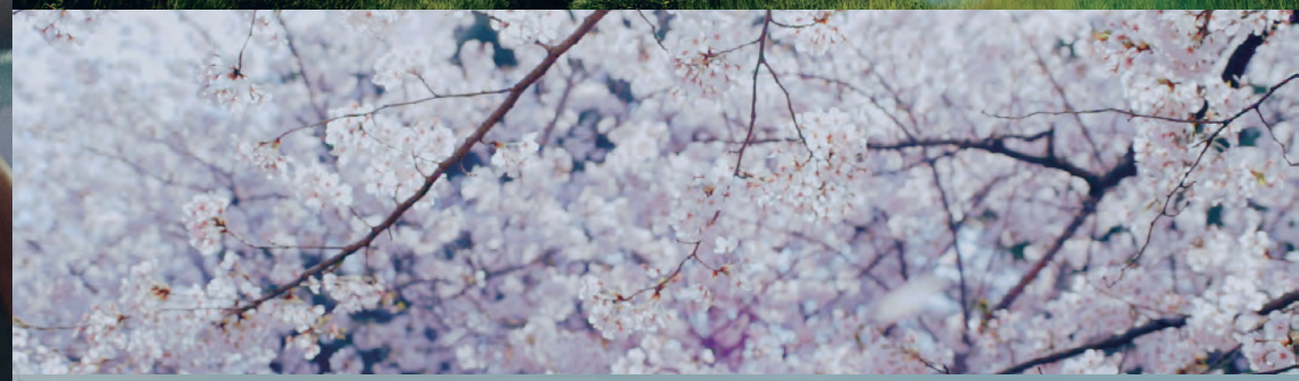
岩男海誠

放送技術プロダクション所属後、フリーランスの映像制作団体スノーマンフィルムを発足
以降Web-CMやTV-CM,MusicVideoなど、写真や動画に関わる作品を幅広く手がける
福岡を拠点に全国的に活躍しており
動画制作・写真撮影を通して企業や自治体のプロモーションやブランディングを行っている

ただただ目の前のことに精一杯で、カメラに撮らされていた時代もありましたが
ここ2〜3年でようやく自分の意思を写真や動画へ素直に反映できるようになってきたように感じています。

また、仕事を通して様々な場所へ足を運ぶのですが
その土地で生きる人々の暮らしや文化に本来の日本の姿があると感じ
色々な人にその姿を知って欲しいという想いが強くなって行きました。

自分が培ってきた技術と、これまでの体験や経験を
これまでお世話になった方々や、今後の活動に活かして行きたいと考えています。



Still

福岡市 大好き中央区!フォトコンテスト【官兵衛グッズ賞】
広島リビング新聞社「あなたの残したい広島100選フォトコンテスト」【入賞】
カメラのキタムラ「365日フォトコンテスト2013秋冬」【佳作】

Movie

LUMIX AWARD 2019 動画部門【優秀賞】
LUMIX CREATIVE COMPETITION 動画部門【優秀賞】
LUMIX AWARD 2020 動画部門【優秀賞】
佐田岬ワンダービューコンペティション 2020【ノミネート】

「ものは言いようRADIO」YouTubeにて配信中

毎週水曜日12:00配信
※曜日の変更あり

ZUNDARE YouTube チャンネルより

お便りは info@zundare.art へ

博多壁

HAKATABEI

これは博多独特の土壁のこと。
戦国時代、相次ぐ戦乱で廃墟と化した博多の町。
豊臣秀吉が戦火の中から復興した際に、焼け石や焼け瓦など、まさに瓦礫を用いた土塀が築かれた。
これが博多塀である。
今日でいうリサイクル用材であるが、そこには博多町衆の復興への熱い思いが表現されていた。
この博多塀を博多左官の高度な技術によって現代に復元したのが、「楽水園」の外塀である。

池泉廻遊式の日本庭園 楽水園
福岡市博多区住吉2-10-7

MIKI SANTOH × ARTIST from FUKUOKA

COLLABORATION VISUAL WORKS

SEVENTH GUEST : OSA(@osa.tokyo)

日本ノ意匠ヲ現代ニ落トシ込ミ
何物二モ囚ワレズモノヲ作ル。
刹那ヲ生キ命ヲ燃ヤシ火ヲ灯ス。

Clothes : OSA / Model : Chihiro Kuramoto / Hair&Make : Ayano Ura / Styling : Miki Santoh / Photo : Yuichi Umehara

オサ (@oniosa)
2014 年より東京の下町にて服飾ブランド『OSA』を始動。日本の伝統と職人の技を生かしながらクリエィションを手掛ける。現在拠点を地元福岡に移し幅広い物作りを実践中。

宇良あやの (@hairmake_ayau_r)
オキナワ県出身 <hairmakeFULL 代表 > 撮影におけるヘアメイクや、イベント、ディレクションなど多方面に活動中。メイクをツールとして、豊かな毎日を楽しめる様、パーソナルを活かす hairmake を提案していきたいと考える。

倉本知尋 (@chihirokuramoto)
福岡県出身。福岡と東京、二拠点でのモデル業を営む。“好きなものを食べ、好きなものを飲む” をコンセプトに「晩酌女子」として YouTube でも活躍中。【YouTube : 酒が呼んでる気がする】

山藤 美樹 (@san_tam)
福岡出身福岡在住、スタイリスト兼アートディレクター。
蜷川実花が編集長を務める「Mgirl」やクリエイティブジャーナル誌「Quotation fashion issue」等のエディターを経た後、フリーペーパー「chikuski」のカバーディレクション&スタイリング、タカガールユニフォームプロデュース、atmos×佐賀県の PRstyling、zundare magazine のカバービジュアルディレクション & スタイリング、ブランドのビジュアル制作、企業 PR 動画のスタイリング等多方面にて活躍中。

ミールス専門店
「チャクラ」
福岡市中央区今泉2-4-4
tel 092-713-0707

酒は、
飲み切る。
混沌
愉しんで、
生きる。
食材を、
活かす。
そして
そもそも…
ミールス
専門店に
普通の
カレーは
なし。
【ミールス】とは?
沢山のものをライスの上で
混ぜながら食べる
“南インドの日常食”です。
混ぜて食べる、混食。
だから混沌…。
更なるチャクラ・小川博流
“言い切るスパイス美学”は
こちらの
チャンネルで!!☞

国体道路の
ラクダ
灯台。

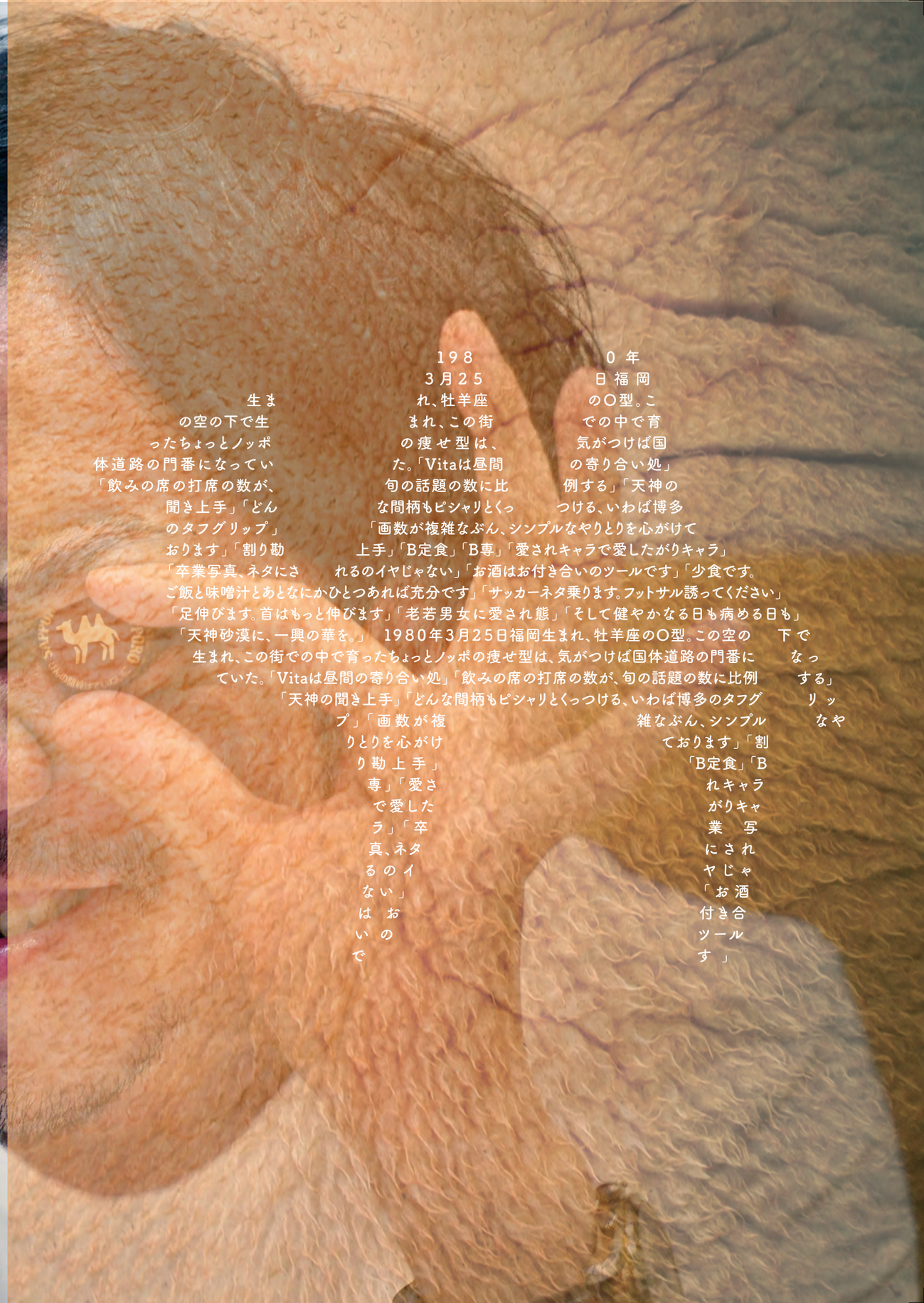
樋
馨
嗣
郎

ひだ
けいしろう

Bar Vita
CEO

天神砂漠に、
一興の華を。

天神ラクダの活きる道。



1980年3月25日福岡生まれ、牡羊座のO型。この空の下で生まれ、この街での中で育ったちょっとノッポの痩せ型は、気がつけば国体道路の門番になっていた。「Vitaは昼間の寄り合い処」「飲みの席の打席の数が、旬の話題の数に比例する」「天神の聞き上手」「どんな間柄もピシャリとくっつける、いわば博多のタフグリップ」「画数が複雑なぶん、シンプルなやりとりを心がけております」「割り勘上手」「B定食」「B専」「愛されキャラで愛したがりキャラ」「卒業写真、ネタにされるのイヤじゃない」「お酒はお付き合いのツールです」「少食です。ご飯と味噌汁とあとなにかひとつあれば充分です」「サッカーネタ乗ります。フットサル誘ってください」「足伸びます。首はもっと伸びます」「老若男女に愛され態」「そして健やかなる日も病める日も」「天神砂漠に、一興の華を。」

1980年3月25日福岡生まれ、牡羊座のO型。この空の下で生まれ、この街での中で育ったちょっとノッポの痩せ型は、気がつけば国体道路の門番になっていた。「Vitaは昼間の寄り合い処」「飲みの席の打席の数が、旬の話題の数に比例する」「天神の聞き上手」「どんな間柄もピシャリとくっつける、いわば博多のタフグリップ」「画数が複雑なぶん、シンプルなやりとりを心がけております」「割り勘上手」「B定食」「B専」「愛されキャラで愛したがりキャラ」「卒業写真、ネタにされるのイヤじゃない」「お酒はお付き合いのツールです」

夏を呼びこむ博多の祭り、
2年目の沈黙中。

ZUSDARE ROAD

#12
「博多通り」

風神・雷神に導かれた
生粋の博多うどん居酒屋、
ここにあり。

ZUNDARE 食 #12

「コピーライターとして
言葉を紡いできた先に辿りついたのが
料理が語るこの世界。」

バブル景気真っ盛りのイケイケ時代、広告業界で一線を張っていた『博多あかちょこべ』オーナー・井上裕之氏がうどん屋に転身して早や十数年。西新から様々な導きによってこの地・冷泉町に店を構え、今ではすっかり街の風景に溶け込む老舗店へとなっていた。筆者が訪れたこの日は、地元人でもあり山昇きでもある井上氏としては複雑な心境、異例の“2年連続の山笠中止”が決定した直後の4月末の事だった。時短営業での限られたひとときの中、開業の経緯から混沌とした現代の裏事情まで実に様々な話が繰り広げられたが心惜しくも割愛させていただく。ここは飯の頁である。

博多あかちょこべ
福岡県福岡市冷泉町7-10
電：092-271-0102
営：11:30～14:00
　　18:00～23:30（OS）23:00
休：不定
※コロナウィルス対策期間により営業時間は随時変動中

さて、まずここの名物は今まであらゆるメディアで紹介されてきたのでご存知の方も多いはず、ずばりこの『ずぼらうどん』である。古典的な『ヤカン』から唯一無二といえる『古式胚芽麺』を潜り出し、特製つけダレに浸して頂く。日本人のぐうたらな庶民性を滑稽かつ巧妙に取り入れたこの看板うどんは、全国各地からの観光客のみならず他国からの来客たちに多大な博多カルチャーショックを与え続けてきた。しかし特筆すべきところはそれだけではない。『博多がめ煮』から『かなぎの炙り』、そして何ちゃない『板わさ』と、炙りもんから串もの、煮物、漬物、あらゆるアテが独特の存在感を放っているのだ。もっと踏み込んで言うならば、土っぽいというか…これぞ、ずばり“土着感”。博多のうどん文化を独自の道で支えつつ、同時にこれらの料理そのものがこの街の飲み屋の歴史をしんみりと表している。そう、これこそが生粋の“博多のうどん居酒屋”たる所以なのだ。この記事を見てくださる皆さん、（観光客だけなく改めて地元の方にも）今こそあえて感じて欲しい。こんな店にこそ、感染病で存続の危機に立たされようとしている“博多外食文化”の尊さ、“日常飲み屋”の存在価値が、垣間見れるのではないかと。私は今、この夜の焼酎を片手に延々と摘める（板わさに添えられていた）たっぷりのわさび菜が恋しくて仕方ないのだ。

これを綴っている時点（2021年5月中旬）では、度重なるコロナ蔓延防止対策として遂に禁酒令が全国各地に敷かれてしまった。何と異常な時代だろう… “今に慣れてはいけないよ”そう酒飲みの遺伝子が、心の奥底から訴えている。

The warmth

大丈夫、あの日々が有るから、僕らは乗り越えられる。

ZUNDARE magazine

Vol.15